

与論島を活性化させるためにはどのようなことをすればよいか

法文学部法政策学科 1年 学籍番号1115400658 平成27年度入学 中山美幸

私はこの講義を受講するまで、与論島という島が鹿児島に存在することを知らなかった。私の育ってきた長崎の五島列島もそうだが、離島は人口減少や観光客の減少による過疎化が進み、島を存続させるために人を呼び込むことを課題としているところが多い。与論島は、沖縄が日本に返還される前までは日本最南端の島として脚光を浴び、多くの観光客が訪れたが、その後観光客は沖縄に流れてしまい観光客はピーク時1980年代後半から客足は遠のき現在では6000人前後となっている。

私は、実際与論島で数日間過ごしてみて、島らしい人の温かさ、魚介類の豊富さと新鮮さ、海の綺麗さなど沖縄に負けない多くの魅力があると分かった。ではなぜ、観光客はなかなか増えないのか。私は、与論はもっと「沖縄と異なる点」を日本中、また世界中にアピールすべきだと思う。例えば、与論島は人口5000人に対してはかなり多く魚が取れるという。最近沖縄の漁協と連携して加工品の原料となる魚を出荷し始めたそうだが、私はいっそのこと加工品をブランド化してしまえばいいと思う。鹿児島のさつま揚げは、長崎のかまぼことほぼ変わらないと私は思っているのだが、ブランド化していることで特産品としてより多くの売り上げを出している。また近年牛1頭当たりの価格が上昇してきているとのことで、肉用牛が商業の中心になってきているとのことだったが、その牛も魚肉加工品とともにブランド化すればいいと思う。

また、あえて不便さを生かして、よろん民俗村をキャンプができるようにし、電気やガスを使わずに茅葺き小屋で昔ながらの生活を体験できるようにすればいいと思う。逆に設備が整っていないキャンプ場は日本国内でもなかなかないと思う。

他にはない観光地というのも、観光客を惹きつける重要なものである。例えば五島列島には、現在世界遺産の登録を目指す長崎の教会群とキリスト教関連遺産の中の多くの教会が存在し、観光スポットとなっている。また、日本初の海上風力発電所が創設されたのも五島列島である。海に囲まれた地形を利用した素晴らしい仕組みだと思う。与論島といえば百合が浜だろう。時間帯によって砂浜が消えたり現れたりするところは珍しい。日本全国に綺麗な海はたくさんあるが、海岸がない海も多数存在する。今回講義に参加私の友達も皆、今回見られなかった百合が浜を見にまた与論島に来たいと言っていたほどだ。与論の他とは違う自然の中のスポットは、沖縄に対抗する十分な要素になると思う。一度来てもらった観光客にもう一度来てもらい、口コミで身近な人に広めてもらおう。

時代に合わせた観光客の誘致の仕方として、SNSを利用する方法がある。例えば、TwitterやFacebookを活用する場合、与論島のアカウントを創設し、与論島についてハッシュタグをつけて投稿すれば島内のお店で割引特典がもらえる、またいいね！の数の応じて副賞を用意するなどすれば、投稿してくれる観光客のやる気をかきたてることができいいと思う。特に、比較的時間があり旅行に出かけることも多い大学生のほとんどはSNSを利用しているので、若い世代に与論島を広めてもらえるきっかけになると思う。

与論島は若者が少なくなっているため、島のイベントを行政が担当しているそう。確かに人手不足であるから行政が介入せざるをえない状況かもしれないが、イベントは伝統が引き継

がれてきたからこそ毎年行われてきたものであり、これからの与論を担っていく若者こそ主催すべきであると思う。島は存在する企業が少なく、高校卒業後に希望の就職先がないからと島を出てしまう若者も多い。若者が働きやすいように企業を誘致し、島を活性化し、観光客を呼び込めるようなアイデアを出してほしいものだ。そのためには、与論島だけに限らず、地元の若者が自分の故郷のためにできることを考えていかなければならない、と私は思う。